

**「(仮称) 滋賀の県立高等学校魅力化プラン」の検討に係る地域別協議会
高島地域 結果概要**

1 会議の日時等

開催日時 令和4年11月7日(月) 14:30~15:50 (高島合同庁舎2A会議室)

出席者	市町	氏名			
	高島市	山本 功	海東茂樹	土永 晶	岸田直也

(敬称略)

◇滋賀の県立高等学校の魅力化について

2 出席者からの主な意見

①	中学生は、しっかり勉強に取り組む雰囲気を整っている高校や、資格を取得して就職できる高校等を希望し、それぞれが将来の自己実現を目指して頑張っている。
②	中学校の教職員は、それぞれの高校で特色を出してほしいと思っている。今年の9月に、高島高校では文理探究科の数学の授業を、安曇川高校では各系列の授業を見学した。それぞれ、その学科名、系列名通りの特色ある授業に取り組んでおり、生徒たちもしっかり授業に取り組んでいた。高校での授業を見学できたことで、中学生に具体的なことを話すことができる。
③	今年の傾向として、通信制高校への志望者が多い。また、近年、特別支援学級から普通科高校への志望者も増えてきた。これらは全県的な傾向と思う。高校でも、生徒一人ひとりに応じた指導が必要になっており、生徒の多様なニーズに応えられる高校づくりが大切と感じている。
④	中学校や高校では、子どもたちが夢を持てる、子どもたちの夢が広がるような魅力ある学校づくりが必要と感じている。
⑤	今の子どもたちは、様々な情報を得て自由に高校選択できる恵まれた環境にある。それぞれの高校で特色ある学びに取り組んでいることが、しっかり中学生に伝わっているので安心している。
⑥	高島市では、これまで以上に中高が連携した取組を充実させる必要があるのではないか。
⑦	普通科を志望する中学生の多くは大学進学を考えているが、高大連携の取組をさらに発信することで、中学生は地元の高校に目を向けるのではないかな。
⑧	令和3年度に、高島高校に文理探究科を設置し、安曇川高校の各系列の充実が図られた。まだ卒業生は出ていないが、生徒や保護者、中学校の教職員は進路実績に注目している。
⑨	高島高校の文理探究科では学習面に力を入れ、普通科では多様な生徒の希望進路に対応した教育活動に取り組んでいるが、生徒と保護者は高校卒業後の進路実績も参考資料の一つとして進路選択する。生徒の希望進路を実現するための教育課程や進路指導等について、しっかりPRすることで、中学生は地元の高校にも魅力を感じるようになるのではないかな。
⑩	高島市では人口減少が大きな課題であり、社会的増減をゼロにすることを目標に掲げている。キャリア教育に力を入れることで、将来にわたって地域に住み続け地域で活躍する人材育成を目指している。
⑪	高島市では「Work Life Story EXPO」を開催し、高校生が、市内の様々な業種の方々と対話することで、市内で活躍できる場を知ってもらっている。地域に興味を持ってもらうことに重点を置いた学びを通して、地域で活躍できる人材を育成することが必要である。
⑫	高島市で、空き家を改修するためのデザインを募集する「空き家デザインコンペ」を開催した。ほとんどは大学生等からの応募だが、地元の高校生の応募もあった。自分たちが高校で学んでいることを地域で発表する機会も大切と感じた。

⑬	高校と地域は、互いに声を掛け合って積極的に協力し合える関係が必要である。高校と地域が連携を深め、その取組内容を広く発信することで、地域内で高校の魅力と存在感を高めることにつながるのではないか。
⑭	地域学習は重要であり、それを指導する高校の教職員は地域のことをよく知る必要がある。県立高校の魅力化には、教職員の資質向上も含まれていると思う。
⑮	高島市の魅力は、「琵琶湖から比較的近い」「土壌がいい」等が挙げられる。例えば、農業の学びがあれば、市外からも生徒が来てくれるのではないか。
⑯	安曇川高校は、農業の学びの施設・設備が十分ではないので、新たに農業の学びを導入するのは難しいと聞く。今ある安曇川高校の施設・設備を活用した地域連携を進める必要がある。
⑰	中学校の部活動が地域移行していく中、市外のクラブチームに所属する生徒がスポーツ環境の整った高校を選択するケースがある。この点も、生徒が市外の高校を選択する要因の一つではないか。
⑱	市外の高校へ行く生徒は一定数いるものの、家から近い高校に行ってほしいという保護者の思いもあり、多くの生徒は市内の高校を志望している。一方、少数ではあるが、遠方の高校へ行って活躍する生徒もいる。中学校では、生徒一人ひとりの学習ニーズに応じて支援している。
⑲	中学生や保護者は、それぞれ考えを持って県外の高校を選択しているので、県外への進学は止められるものではない。県内外や県立・私立問わず、共存する道を探すべきではないか。
⑳	高島高校にはボート部はあるが、他校と比較すると施設・設備等については、生徒数が少なく学校規模が小さいと環境が整わなくなると感じている。なぜ、高島市内の2校を統合しないのか。小規模でも2校あった方が学校の特色を出せるのか、1校に統合して学校規模を大きくした方が特色を出るのかは、県教育委員会でしっかり考えてほしい。
㉑	近年、部活動を学校単位で取り組む意味が問われていると思う。また、多くの家庭で家族旅行をしている現状においては、修学旅行の在り方についても問われていると思う。

※発言順不同